



プロジェクトマネジメント学会 2006年度九州支部シンポジウム

2006.10.5

主催 プロジェクトマネジメント学会九州支部
後援 プロジェクトマネジメント学会中国支部
プロジェクトマネジメント学会四国支部

テーマ：「プロジェクトマネジメントにおける TOC の効果的適用」

<http://pmk.minnie.ai.kyutech.ac.jp/>

TOC (Theory of Constraints:制約理論) は企業経営にとって大変有効な理論であり、今後、プロジェクトマネジメント上でも重要視されると考え、これに着目したテーマとしました。

日時 2006年10月19日(木) 9:30~18:00
2006年10月20日(金) 9:30~17:30

場所 都久志会館
福岡市中央区天神 4-8-10

プログラム

10月19日(木) 受付 9:00 ~

講演内容は変更になることがあります

9:30	主催者挨拶	PM学会九州支部長 石松 健男
9:40	学会役員挨拶	PM学会理事 河合 輝欣
9:50	来賓挨拶	
10:15	基調講演 (通訳付)	TOC 思考プロセスの基本構造と システム改善への適用(The "U" shape) ゴールドドラットスクール校長 オーデッド・コーエン
12:15	(昼食)	
13:30	特別講演 I	スケジューリングの考慮点 - Critical Chain Scheduling と Buffer Management 日本アイ・ビー・エム(株) 神庭 弘年 (PM学会理事)
14:35	事例発表 I	Case Study CCPM 建設設計業への適用事例 - リードタイムを1/3に、受注拡大を実現させた建設業者のケース - (株)ジュントス 白土 竜馬氏 (PM学会九州支部)
15:05	事例発表 II	TOC-CCPM の適用と組織の論理的制約の影響の事例 (株)N T Tデータ 岡村 孝彦
15:35	事例発表 III	TOC による生産・SCM 革新プロジェクトの事例 - 自動車部品メーカーのケース - (株)日本総合研究所 松崎 健一
16:15	パネルディスカッション テーマ 司会者 パネラー	プロジェクト・マネジメントにおける TOC の効果的適用 九州工業大学 助教授 高田 修 (PM学会九州支部) ゴールドドラットスクール校長 オーデッド・コーエン 山口大学 助教授 大島 直樹 (PM学会中国支部) (株)TOC 研究舎代表取締役 佐々木 俊雄 事例発表者、他
18:00	懇親会	

10月20日(金) 受付 9:00 ~

9:30	学会役員挨拶	PM学会理事 神庭 弘年
9:40	チュートリアル I	TOC 概念、思考プロセス 九州工業大学 助教授 高田 修 (PM学会九州支部)
10:50	チュートリアル II	スループット会計 (株)TOC 研究舎代表取締役 佐々木 俊雄
12:20	(昼食)	
13:30	チュートリアル III	TOC による生産革新および SCM 革新の概要 (株)日本総合研究所 松崎 健一
15:10	チュートリアル IV	プロジェクト管理 (CCPM) (株)ジュントス 朝稻 啓太 (PM学会九州支部)
16:30	Q&A コーナ	TOC に関する質問 ゴールドドラットスクール校長 オーデッド・コーエン

■ 講演者プロフィール

基調講演&パネルディスカッション:

オーデッド・コーエン

International Director – Goldratt Schools

略歴

28年間、ゴールドラット博士と共に世界中で活動しており、OPT(*1)をはじめ、思考プロセス、TOCマネジメントスキルの開発者の一人である。イスラエル工科大学 OR エンジニアリング修士。

TOCの実践者及びコンサルタントを育成するための教育を支援しており、TOCを愛する人からは、その情熱的な仕事振りで知られている。

2001年以來、全世界にあるゴールドラットスクール(*2)の統括責任者として、ゴールドラットグループの一翼を担っている。

著書

「二大博士から経営を学ぶ デミングの知恵ゴールドラットの理論」(Deming & Goldratt and the “Decalogue”? a ten step approach to implement continuous improvement using the concepts of Deming and Goldratt)

著者/訳者名 ドミニコ・レポール、オーデッド・コーエン 著
三本木亮 訳 生産性出版 (ISBN : 4-8201-1799-8)

注記

(*1)OPT : Optimized Production Technology ゴールドラット博士が1970年代後半に開発した生産スケジューリングソフトウェア。

(*2)ゴールドラットスクール: ゴールドラット博士が率いるゴールドラットグループの1グループとしてTOCの教育を担当。TOCが組織運営の主流のひとつとなることを目指し、誰もが簡単にTOCの教育を適切に受けられるよう、その機会を世界にあまねく提供している



特別講演 : 神庭 弘年

日本アイ・ビー・エム株式会社
PM プロフェッション

略歴 1973 日本 IBM・大阪データセンター入社

1980~ 製鉄業(生産管理、生産計画業務)、銀行関連のプロジェクトに従事

1984~ IBM開発標準(ADSG等)の開発担当

1987~1997 多数のシステム開発プロジェクトに関与、製造、金融、保険、流通など多数の業種におよぶ

1997~1998 PM/COE worldwide task 参加

1998~2003 部品表(自動車)再構築プロジェクト統括PM

2002 IBM 認定 Senior Executive Project Management Asia Pacific PM Profession Leader

2003 理事

2005 PM Profession Japan Executive

2006.5 定年(理事退任)、

PM プロフェッション最高位者として職務継続、現在に至る

その他 P Project Management Institute 会員、PMP

PMI-東京会員、理事、情報処理学会正会員、

PM学会正会員、理事、大会特別委員長

慶応義塾大学非常勤講師



事例発表II : 岡村 孝彦

株式会社NTTデータ

第一公共システム事業本部 企画部

プロジェクト推進担当 部長

略歴 1959年生まれ

1982年京都大学工学部情報工学科卒業

1984年京都大学工学部修士課程終了

1984年日本電信電話公社入社

2006年現在、(株)NTTデータ 第一公共システム事業本部に所属

同社にて、プロジェクトマネージャとしてシステム開発プロジェクトに携わる。同時に、意味のあるプロセスの標準化をモットーに、システム開発プロセスへCMMI(能力成熟度モデル統合版)を職場に導入。

2001年「ザ・ゴール」でTOCに出会う。2003年より、CCPMを職場のプロジェクトに導入。得られた効果が、不十分であるため、2005年より、TOC研究会佐々木俊雄氏の支援を得て、思考プロセスによる問題の解決に取り組み中。

2002年PMP取得

2005年TOC-ICO認定ジョナ取得。



事例発表I : 白土 竜馬

株式会社ジュントス人財開発グループ

略歴 九州大学文学部中退。2003年に株式会社

ジュントス入社。自社設計業務へのCCPM導入プロジェクトのメンバーとしてTOCを実践。その

体験に基づきTOC関連の各種セミナー企画、学会での講演活動などを通じ、九州におけるTOC

の普及に携わる。中小企業診断士、九州大学「産学連携製造中核人材育成事業」Management of Manufacturing 講座 講師。



パネルディスカッション : 大島 直樹

山口大学大学院

技術経営研究科技術経営専攻助教授

略歴 1993年名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程結晶材料工学専攻修了。同大学より博士(工学)授与。同年豊橋技術科学大学助手。

1999年山口大学工学部講師。窒化ガリウムの高品質化に関する研究に従事

2003年MOT(技術経営)教育活動に従事。同活動に対し2004年山口大学工学部より教育賞を授与される。

また、工学教育にも取り組み、オレゴン州FEライセンスを取得。プロジェクトマネジメント学会会員。

著書『MOT ベーシックス(3)プロジェクトマネジメント』(EME出版)など



パネルディスカッション

チュートリアルI : 高田 修

九州工業大学大学院

情報工学研究科 情報創成工学専攻 助教授

略歴 1983年名古屋大学大学院工学研究科

博士前期課程情報工学専攻修了

同年株式会社豊田中央研究所入社

2001年九州工業大学情報工学部助教授

博士(工学)名古屋大学

製造・輸送業などを中心として、現場のノウハウ・事例、専門家や組織が保有する知識を計算機で活用できるように、各種業務を分析・モデル化し、それらを支援するシステムを試作し、方法論を確立すると共に、実用レベルでのシステムを開発・運用する。これまでに、設計・生産に関する多くの実用システムを開発した実績がある。



パネルディスカッション

チュートリアルII : 佐々木 俊雄

株式会社TOC研究会 代表取締役社長

略歴 (株)東芝にて生産設備の設計に従事。その後ソニー(株)に転職し、電子部品の開発設計・

製造に携わる。工場管理の一環として、TQMなどの品質改善活動、JITやTPMなどの生産性改善活動を推進する。また米国、中国、東南アジア

などの海外工場の生産性改善を指導。営業の技術支援のため2度にわたり米国へ赴任。赴任中TOCの調査を開始。帰国後、ウェブサイト「TOC 制御理論のひろば」の立上げ、また講演・執筆などをとおして日本でのTOCの普及に努める。

2004年8月、(有)TOC研究会を設立。

2005年4月、有志とともに日本TOC推進協議会を設立

TOCICO(TOC国際資格認定機関)認定プラクティショナー

AGI認定ジョナ

著書「思考を変える!見方が変わる!会社が変わる!」共著中経出版

「TOCスループット会計」翻訳ダイヤモンド社など



事例発表III

チュートリアルIII : 松崎 健一

株式会社日本総合研究所研究事業本部 主任研究員

略歴 1993年京都大学大学院工学研究科数理工学専攻修了後、住友金属工業株式会社におけるORロジック開発、SCM・EC戦略立案などを経て、2001年に日本総合研究所入社。

専門はTOCによる生産革新・SCM革新、システム化構想策定、業務改革、SCP・ERP導入など。

米AGI認定TOCコンサルタント、独SAP社認定APOコンサルタントの資格を持つ。



チュートリアルIV : 朝稲 啓太

株式会社ジュントス 設計技術グループ 主任

経歴 2005年九州工業大学情報工学部卒業。在学中、TOC,CPM,EVMなどプロジェクトマネジメントに関する分析・研究に従事。その後、株式会社ジュントス

に入社し、橋梁上部工の設計開発・営業活動に携わる。企業変革としてTOC(CCPM)導入を推進する。

九州大学「産学連携製造中核人材育成事業」

Management of Manufacturing 講座 講師、TOC-ICO認定Jonah



■ シンポジウムの狙い

PM 学会九州支部では、2005 年度より研究会活動を行っています。その一環として、TOC ソリューションである思考プロセス、CCPM 等の勉強会を続けており、PM学会発表論文も数編だしています。

この研究会の更なる発展を期し、広く専門家の話を聞く場を設け、プロジェクトマネジメントにおける TOC の役割・可能性などを確認する場として、本企画を設けました

また、本シンポジウムを通して、研究会の成果の一部を公開する機会を設けるとともに、TOC の最新動向を知る機会を地域の産官学の関係者に提供することで、PM 学会の中立・公平な学術啓蒙団体としての使命を果たし、地域の発展に寄与するように考えています。

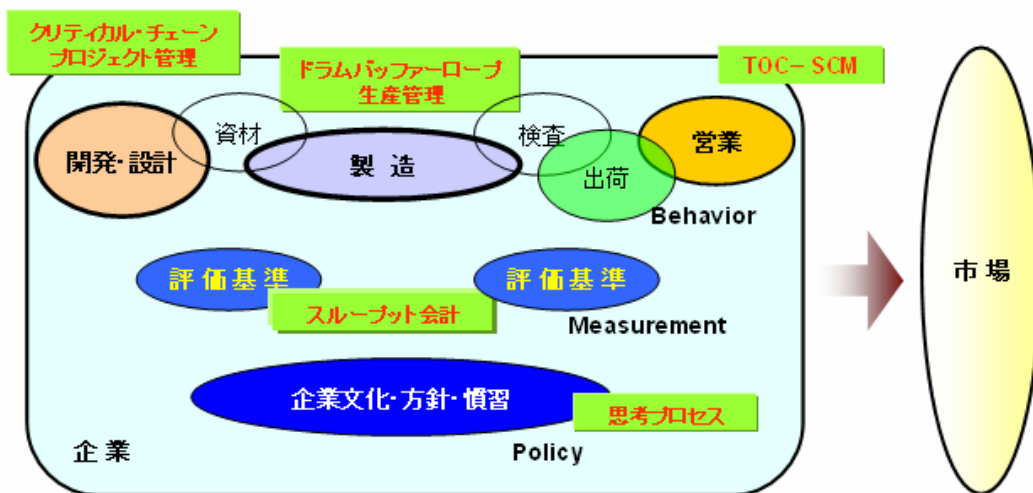
尚、研究会活動は九州支部ホームページ (<http://pmk.minnie.ai.kyutech.ac.jp/>) に掲載しています。ご興味がある方のご参加を歓迎します。

■ 用語解説

◆ TOC 制約理論 (制約条件の理論)

TOC (Theory of Constraints ; 制約理論または制約条件の理論) の起源は、1970 年末にイスラエル人物理学者 エリヤフ・ゴールドラット博士が開発した生産管理用ソフト OPT (Optimized Production Technology) に遡る。1984 年に、ゴールドラット博士は「The Goal」という工場改善物語を出版し、その中で OPT の背後にある理論を公開した。多数の工場に導入され、その実績から JIT (ジャスト・イン・タイム) を超える生産方式だといわれている。

その後、問題解決手法として「思考プロセス」を開発。製造のみならずビジネス全般、さらに人間が介在するあらゆるシステムの問題解決へと応用が広がり、現在では TOC の中心的存在となっている。



◆ TOC ソリューション

・思考プロセス

“TOC の根幹は思考プロセスにあり” — 人間が介在するシステム (組織) が抱える複雑な問題を論理的に分析し、ブレークスルー的な解決策 (変革) を導出するための思考ツール。幾多の実践により実証された手法を活用し、現実の事象を厳密な因果関係で捉えることで、現象面ではなく真の原因にアプローチすることを可能とする。また、変革を実行に移す際に不可欠な「周囲のコンセンサス」を得る仕組みも含まれている。

・スループット会計

“部分の判断/行動を全体最適に結びつける” — 全体最適に基づく意思決定を、はやく確実にを行うための評価/判断基準。部分最適を助長する原価計算システムを否定し、現場と経営をつなぐ指標として T (スループット)、I (インベストメント)、OE (業務費用) を用いる。

・DBR ; ドラム・バッファ・ロープ

“変動の影響を無効にする『頑健な』同期生産方式” — 小説『ザ・ゴール』にも登場する TOC の代表的なソリューション。制約工程に着目し、投入工程をコントロールすることで工場全体を同期させた生産マネジメントの仕組みを提供する。多くの場合、短期間のうちにリードタイムの大幅短縮、仕掛在庫の削減を実現する。

・CCPM ; クリティカルチェーン・プロジェクトマネジメント

“プロジェクト管理の視点を部分から全体へと転換させる” — 「PMBOK® (プロジェクト・マネジメントの知識体系) 2004 年版」にも取り上げられている新しいプロジェクト管理手法。各タスクから取り出した安全余裕をプロジェクトの最後部に集めてモニタリングすることで、プロジェクト全体を保護する。複数プロジェクトの管理にも適用可能。

■ 開催場所

・シンポジウム 都久志会館

福岡市中央区天神 4-8-10

<http://tsukushi-kaikan.jp/>

・懇親会 福岡ガーデンパレス

〒810-0001 福岡市中央区天神 4-8-15

<http://www.hotelgp-fukuoka.com/access/index.html>

■ 申込方法

添付申し込み用紙で FAX または E メールをお願いします。

<<宛先>>

佐藤 俊介

E-mail : pmk-sympo2006@ysknet.co.jp

電話 093-622-6111

Fax 093-622-6121

住所 〒806-0037

北九州市八幡西区東王子町 5-15

安川情報システム株式会社品質保証部



■ 参加費

	会員(協力団体会員含む)		非会員		学生
	通常	早割	通常	早割	
参加費	8,000 円	6,000 円	12,000 円	10,000 円	1,000 円
懇親会	5,000 円				1,000 円

(注 1) 2006 年 10 月 18 日までに申し込まれた場合は、早割りになります。

(注 2) 会費は、当日、受付にて領収書と引換えで頂きます。

(注 3) ご支援頂いている大学、団体、企業および技術士会、PMI 東京(日本)支部の方は、会員扱いとさせていただきます。

■ 各種団体ポイントについて

◆ PMP 1 2 PDU が取得できます

◆ 技術士会 受講時間が CPD 時間になります(時間重み計数 CPDF=1)

◆ ITC 12 時間(4 時間 1 ポイント相当、上限なし)分が付与されます

同一団体・組織(PM学会)からの付与ポイントの申請は、年間合計で 4 ポイントまでとなっていますのでご注意ください。

■ PM 学会の入会方法

入会を希望される方は、<http://www.spm-japan.jp/> から入会手続きができます。



◆◆◆ ご支援頂いている教育機関、団体、企業 ◆◆◆

九州大学工学研究院製造中核人材育成室
 九州工業大学情報工学部
 九州国際大学
 九州産業大学情報科学部
 九州情報大学学術研究所
 佐賀大学 理工学部知能情報システム学科
 東海大学福岡短期大学
 福岡大学経済学部ベンチャー起業論阿比留研究室
 山口大学大学院技術経営研究科
 早稲田大学大学院情報生産システム研究科

九州経済産業局

IT コーディネータ協会
 管理会計学会九州支部
 財団法人 九州ヒューマンメディア創造センター
 財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS)

北九州情報サービス産業振興協会
 社団法人 中小企業診断協会 福岡県支部
 福岡商工会議所
 日本 OR 学会九州支部
 日本 TOC 推進協議会

株式会社 NTT データ九州
 九州日本電気ソフトウェア株式会社
 株式会社 ジュントス
 株式会社 日立製作所
 富士通株式会社
 松下電工システムソリューション株式会社
 三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
 株式会社 安川電機
 株式会社 安川情報九州
 安川情報システム株式会社